



◎ 広島大学病院総合内科・総合診療科からのご挨拶

伊藤 公訓 | 広島大学病院
総合内科・総合診療科
教授
Masanori Ito

いまだコロナ禍は終息の兆しが見えません。みなさま大変な毎日をお過ごしのことと存じます。このご時世、直接お会いできる機会も限られていますが、このSoshin Pressを通じて、みなさまにご挨拶とご報告ができればと思います。

新年度となり総合内科・総合診療科も新たなスタートを切りました。新入局の西河求先生、田中基樹先生は、それぞれ元気に専門研修をスタートしました。さらには、塩崎美波先生、酒井加奈先生が当科に加わり、佐藤只空先生は東京から広島に戻ってくれました。彼らは未来の広島の総合診療を支える逸材です。どうぞご指導をよろしくお願い申し上げます。そして菅野啓司先生はじめとした当科医局スタッフは、診療、教育、研究、そして福島への診療支援と、引き続き活躍してくれています。誠に頼もしい限りです。

その中で今年度特筆すべきは、当科に漢方診療部門が加わったことです。漢方診療センター長の小川恵子先生をはじめ、6名のスタッフ・大学院生が金沢大学から本学に

てくれました。これを機に、広島の漢方診療は大きく発展していくことと思います。どうぞご期待ください。

医療の細分化が進む中、総合医のニーズはますます高くなっています。総合医が持つ「広範囲の診療能力」は、今後社会が求める最も重要な「スキル」になっていくことと思います。当科は小さな医局ですが、当科で研鑽を積んだ若手医師は、県内基幹病院や地域の病院、診療所・クリニックで、地域を支える中心的役割を果たしてくれるものと確信しています。

さらに昨年からは、行政（広島県）と共に総合医を育成する活動を展開しています。加えて、県内各地におられる優れた指導医の先生や、自治医大の先生との連携も大変重要な課題と位置付けています。これからも当科は、あらゆる手段を使って、社会に役立つ「優れた総合医」の育成に力を入れて参ります。未来の広島の医療を作るため、ぜひみなさまも、この広島で総合医を育てる輪に加わってください。

厚みを増した総合内科・総合診療科の スタッフ陣営にご期待ください

平素より同門の先生方、ならびに関係施設の皆様には教室運営にご協力を賜り感謝申し上げます。

本年度は2名の新入局者に加えて、金沢大学より小川先生をはじめとする漢方診療のスタッフの皆様をお迎えして、医局として大きな飛躍が期待できる陣営で新年度をスタートすることができました。

診療におきましては、昨年度から開始した医局スタッフを中心とした外来運営が定着し、さらに積極的な救急搬送患者の受け入れを開始することで、外来・入院診療の充実を図っております。また、これまで切望されていた漢方診療のエキスパートの先生方が加わっていただけたことは心強い限りです。研究面では、これまでの生活習慣病の病態解明を基盤とする基礎研究を継続しながらも、既存のデー

ターベースを利用した疫学研究や、他診療科との共同研究など研究領域の拡充をし、大学院生の多様なニーズに答えるべく研究体制の構築を目指しております。教育におきましては、当科関連施設のご協力のもと初期研修医の院外研修が開始され、今後その反響に期待を寄せているところで

当教室の大きな特徴の1つとして、若いスタッフが医局運営において積極的に意見を言える環境があります。前述した様々な変革などもその賜物といえます。今後もそれぞれの教室員が臨床、研究、教育を通じて、のびのびと活動ができるような環境を作るように尽力いたします。コロナ渦で大変な状況の中ではございますが、皆様の引き続きのご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

若手医師たちの頑張りとお 皆さまのご献身に感謝します

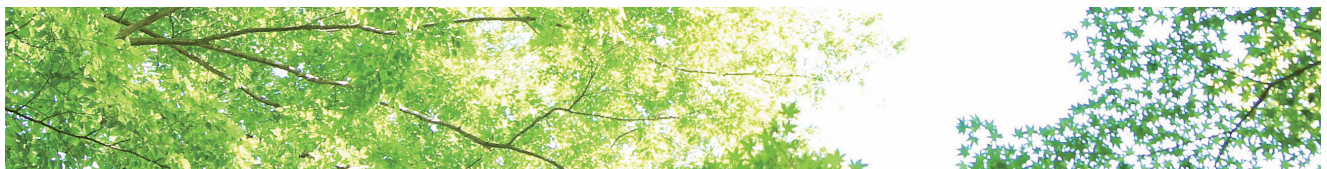
2020年度は我々にとっても、今まで経験したことのない1年であったように思います。発熱という症状があるだけで周囲からの反応が大きく変わり、余計な負担が掛かるなか病棟を担当してくれた若手医師たちはとても頑張ってくれたと思います。

昨年度の当科における入院患者数は例年よりも少なく、70件程度に減少してしまいました。しかし、その内訳を見ても、POEMS症候群や血球貪食症候群など、いわゆる「総合診療科ならではの症例」に限って言えば、その数は減っていませんでした。このような情勢下であっても我々に求められる役割は、変わらず不明熱を代表とする診断・治療に苦慮する疾患への対応であると実感させられます。我々が消極的になることなく、「大学病院の総合診療科」として対応できたのも、偏に皆さまがまず診療にあたり、新

型コロナウイルス感染等を除外いただいたおかげであることは間違いありません。そのご献身に対して本当に感謝の念に堪えません。

しかし、2021年度は今までのようにはいかないようです。第4波は変異株の影響もあり広島でも感染が拡大しています。そのような状況下で、ついに大学病院にもコロナ病床が作られ、感染症科と共に総合診療科も中等症患者の対応をすることになりました。県の指示に従いつつも、スタッフが疲弊しないように対応していきたいと思っております。

今までどおりの診療を維持しながら、コロナ対応も行うという命題はなかなか難しいものがありますが、研鑽をつみ、努力を続けていく所存ですので、これからも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



複雑性・不確実性に強い総合診療医の育成と個性を重視した包括的な診療を 外来カンファレンスの充実による後進育成を目指す

宮森 大輔

Daisuke Miyamori

診療講師
外来医長

COVIDの流行に伴い、患者数は一時期減少しておりましたが、2021年度に入り徐々に紹介も含め患者数は増加傾向にあります。最近では外来初診が40件/月、再診600件/月前後で推移しています。紹介および初診患者については、少なくとも30分から1時間程度は時間をかけて問診・診察を行っております。臓器横断的な診療・治療のみならず、患者と患者の家族の健康、QOLの向上を目指し、個性を重視した包括的な診療を心掛けています。

また、今年度より漢方診療科に常勤医師として小川恵子先生が赴任され、外来診療が始まりました。様々なアプローチ方法により今後の連携強化による様々な疾患・症状への対応を図っていきます。

外来診療の標準化を目的とした教育は当科の特性の一つと考えます。スタッフを含む複数の医師で紹介患者を含む初診患者の診療経過を確認し、診療内容の充実を図るとともに、カンファレンスを開催して、後進の育成に取り組んでいます。

2021年度 総合内科・総合診療科 教務だより

大谷 裕一郎

Yuichiro Otani

診療講師

総合内科・総合診療科では5年生6年生の臨床実習、IPE(専門職連携教育)、4年生のOSCE(客観的臨床能力試験)、3年生の漢方医学、PBL(問題解決型学習)、1年生のコミュニケーション学を担当させていただいております。本年度より、漢方医学のスペシャリストとして金沢大学より小川恵子先生が当診療科に着任され、臨床、研究とともに講義も御担当いただけることになりました。Covid-19感染症に対峙する東洋の知恵を

目の当たりにできる良い機会であり、我々の臨床、教育、研究業務にとっても大きな力となると楽しみにしています。臨床実習の中止という痛手を負ったこの一年でしたが、地域医療の最前線に役に立つ臨床医を育てることを目標に変わりはございません。総合内科・総合診療科同門会の皆様、そして医学部学生支援など関係者の皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

当科の魅力を若手へ更に伝えられる研修体制構築の取り組み 院外研修を組み込んだカリキュラムを導入

菊地 由花

Yuka Kikuchi

助教

初期臨床研修教育担当

当科では本年度29名の初期臨床研修医がローテート予定となっております。コロナ禍の影響で大学の患者数は減少し、彼らに経験させるべき症例の量と質が当院だけでは確保できない現状がございます。昨年度はスタッフ外勤先への帯同研修を行い、研修医から「大学では経験し得ない症例が多く、総診の違った側面をみて大変勉強になった」「将来の理想の医師像について考えを深められた」など、うれしい感想が寄せられました。

今年度からは多くのご施設のご協力を賜り、院外施設研修カリキュラムを新たに導入致しました。大学病院以外の様々な

セッティングにおける総合診療医の多様な働きをみて魅力を感じ取ってもらい、多くの症例を経験させること、さらには将来仲間になってくれる若手医師が増えること等を目的としております。ご協力いただくご施設の方々には大変なご苦勞をおかけし誠に恐縮です。広島でより良い総合診療医の育成のため、皆さまのお力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。



初めての専門医研修がスタートして3年 より魅力的で実践的なプログラムの提供を

小林 知貴

Tomoki Kobayashi

助教

専門研修プログラム・
専門医制度運営責任者

本年度は総合診療専門研修プログラムに新たに、西河求先生と田中基樹先生の2名の専攻医を迎えることができました。また、3月には、日本プライマリ・ケア連合学会認定の家庭医療専門医コースを吉田晶代先生が、日本専門医機構の総合診療専門医の1期生として、池田晃太郎先生と木村直人先生が3年間の研修を無事修了いたしました。総合診療専門医については、19番目の基本領域として初めての専門医研修がスタートして3年が経ちましたが、世の中の総合診療専門医に対する

ニーズはあるものの、まだまだ専攻医の数が増えていなのが現状です。今後の少子高齢化や地域包括ケアの推進などを考えますと、当プログラムといたしましても、家庭医および病院総合医をめざす学生・研修医のみならず、より魅力的で実践的なプログラムの提供を行い、さらなるロールモデルの育成など総合診療医養成に努めて参ります。同門および研修病院の指導医の先生方には、引き続きご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

◎新任のあいさつ

小川 恵子

Keiko Ogawa | 特任教授

顔色を診てその人の状態がわかる 漢方医学的診察は本能的な感覚情報の集大成です

2021年4月より、総合内科・総合診療科 漢方診療センターに赴任しました小川恵子と申します。皆様にご指導いただくことが多いと思いますが、よろしくお願い申し上げます。

私はもともと小児外科医として働いていましたが、西洋医学的知識だけでは乗り越えられない多くの問題を目の当たりにし、臨床の幅を広げられないかと模索するうちに漢方に出会いました。例えば、腸の手術をした後はお通じをつけることが重要なのですが、一般的な下剤を用いると下痢や腹痛が起こることがあります。そんな時、大建中湯（だいけんちゅうとう）などの漢方薬を使用すると排便をおだやかに調節することができます。また、腸の手術後は、腸内細菌叢を守るため、可能な限り抗生剤を使わないようにしなければなりません。風邪の初期に漢方薬を適切に使うと、抗生剤の使用を減らすことができます。このように漢方薬は手術後の腸管の機能改善を助けることができます。また、補剤などの漢方薬を継続して服用することにより、風邪を引きにくい体質にすることができます。このような、漢方の「患者さんによりそう」効果にすっかり魅せられて、漢方の勉強を始めました。

漢方医学は、古代中国医学にルーツをもちますが、1500年以上の歴史を持つ日本の伝統医学で、日本で蓄積



された臨床経験をもとに独自の理論が形成され発展してきたことから、日本人に適した伝統医学といえます。漢方医学には、湯液（漢方薬）、鍼灸、按摩が含まれます。特に漢方薬は、昭和中期から保険医療に組み込まれています。日本は伝統医学と現代医学の両方の視点で患者さんの訴えを診る世界で唯一の伝統医学先進国と言えます。しかし同じ病名でも、個人によって適する処方が異なったり、その効果が多様であることから、理解が難しい、エビデンスが不十分であるというご意見もあります。患者さんに効果的な漢方治療を安全に行うためには、漢方医学をきちんと習得した医師の育成と、効果や安全性を明らかにする研究を続けることが必要であると思います。

漢方医学的診察は、難しいと思われがちですが、顔色を診てその人の状態がわかる、などの本能的な感覚情報の集大成です。適切な漢方医学的診察法で診察経験を重ねれば観察力や判断力を養うことができます。漢方医学的診断には「四診」という4つのステップがあります。視覚による「望診」、聴覚と嗅覚による「聞診」、患者から病状や自覚症状を聴く「問診」、そして患者に手を触れて診察することによる「切診」の4つです。これらの診察を元に診断し、漢方薬を決めます。何かお役に立てることや、ご不明なことがありましたら、いつでもお声がけください。

「痒い所に手が届く」ドクターズクラークを目指して

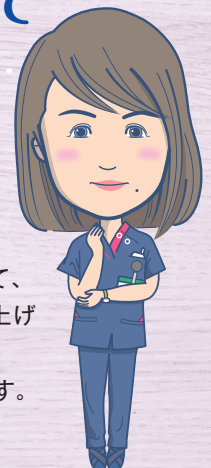
斉藤 由美子 Yumiko Saito

総合診療科ドクターズクラークの斉藤由美子と申します。月曜日は伊藤先生、火曜日は石田先生、水曜日は菅野先生、木曜日は漢方の小川先生・菊本先生のシュライバーとして代行入力や各種データ収集などを行っています。当科に配置されて早いもので7年目となります。先生方にとって「痒い所に手が届く」存在を目指し日々頑張っております。診療報酬で医師事務作業補助加算は年々右肩上がりとなり、「医師の事務負担の軽減」に加え「医師が本来実施すべき専門性の高い業務に専念できる環境づくり」への二

ズの高まりを感じております。先生方のご期待に沿えるよう今後も努力を重ねてまいりたいと思っております。

また、今年度から開始となりました、大学初期研修医の院外施設研修に関して、私から指導医の先生方へご連絡を差し上げる機会があるかと存じます。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。



福島医療支援センターの 活動報告

河原 章浩
Akihiro Kawahara

助教



ふたば医療センター附属病院



1

自家用車を14時間ほど走らせると目的地である福島県に到着しました。福島の人々は皆ダウンを着ており、半袖しか持ってきていない私の最初の悩みは寒さでした。

私は広島大学の福島医療支援センターによる派遣にて福島県双葉郡にある、ふたば医療センター附属病院に従事しています。同院は双葉地域の住民が安心して帰還し生活できる、復興事業従事者が安心して働ける、企業等が安心して進出できることを支えるため設立されました。地域住民の乳幼児から年寄り、加えて、東京電力職員、原発、除染作業員の方が来院します。交通事情からヘリコプター搬送や、救急外来でガイガーカウンターを使用することもあり、地域の特殊性を感じます。

第一原発周囲以外の放射線空間線量は改善していますが放射線に対する不安が強いこと、避難から時間が経過し過ぎてしまったことより住民の帰還は進んでいません。今後の課題として放射線に対する正しい理解を深めることが重要です。復興庁が作成した「放射線のホント」という冊子がインターネットで閲覧することができます。
(<https://www.fukko-pr.reconstruction.go.jp/2017/senryaku/>) また帰還した人でも放射線への不安を抱えています。町役場には長崎大学による放射線関連の相談窓口



2

を開設し、食べるものや土壌の放射線量を測定し、住民の不安の払拭に努めておられます。しかしながら未だに道路脇に除染土が累々と積み上げられ、街中にバリケードが張り廻らされているのを見ると、精神的なストレスが帰還を阻んでいるのかもしれませんが。また

住民の間では、放射線暴露による差別、助成金をめぐるトラブル、食品の風評被害などその他の問題も山積みです。

暗い話題ばかりでしたが、福島県の観光もご紹介します。喜多方は坂内食堂、白川はとら食堂、郡山ラーメンは正月屋とご当地ラーメンが複数あります。私がオススメするのはどれでもない「伊達屋」です。福島駅からは少し離れますが、是非訪れてください。1時間ほど待つこともありますが、伊達鶏のスープで作られた塩ラーメンは絶品です。餃子といえば栃木県ですが、福島には円盤餃子があります。満洲から復員された方が、中国の味を再現して出来上がったそうです。有名店は「満腹」、「つやこ」になります。そして単身赴任の私の枯れた心を潤してくれるのは、日本酒です。飛露喜をはじめ、沢山の蔵元があり、福島県酒造組合が清酒アカデミーを運営し、人材育成をしています。桜の名所である三春滝桜の近くに蔵元を構える仁井田本家の「にだしぜんしゅ」が個人的に気に入りました。2021年3月号のdancyuに紹介されています。

色々な切り口のある福島県ですが、一度は訪れるべき場所です。詳しい情報が欲しい方がいらっしゃいましたら、ご一報ください。



3



4



5



6

①多目的医療用ヘリは患者の搬送、専門医、医療資機材の輸送といった幅広い用途に対応する。公立病院設置は、全国初。②英語の看板の記載は、high-dose radiation areaとオブラートに包まれていない。そのほか、「自動二輪車、原動機付自転車、軽自動車、歩行者は、通行できません」の看板もある。③三春滝桜、1922年に国の天然記念物の指定を受けた日本三大桜のひとつ。④放射線モニタリングポスト。放射性物質汚染対処特措法に基づく汚染状況重点調査地域の指定や、除染実施計画を策定する地域の要件を、毎時0.23マイクロシーベルト(μSv)以上としている。⑤バリケードの先は壊れたままの街がそのままとなっている。開業したばかりの病院もそのまま。⑥伊達屋の塩焼豚麺。カンニング竹山もおすすめの一品。

OB The Graduates 活動報告



地元住民に身近な医療の実践を通じて 同じマインドの仲間を増やしたい

青崎いぶきクリニック 院長 松田 聡介
Sosuke Matsuda

皆様には平素より大変お世話になります。広島市南区青崎で診療所を運営しております松田聡介と申します。僭越ながらOB活動報告第一弾をさせていただきます。

まず小生および当院の紹介をさせていただきたいと思えます。当院の前身は「坪田内科」といい、平成元年に前理事長の坪田元記先生が南区東青崎町にご開業されました。小生も小学生時代より坪田内科をかかりつけとして受診しておりました。小生自身も町医者を目指し、広島大学病院総合診療科（現総合内科・総合診療科）の家庭医療専門医養成プログラムに所属し、平成25年8月に広島県内のプログラムで第一号となる日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医を取得させていただきました。その過程の中で平成24年より坪田内科に勤務しました。平成27年6月より理事長・院長に就任し、令和2年10月に現在の南区青崎（旧坪田内科のすぐ近く）に医療法人いつき青崎いぶきクリニックと改名して移転開業いたしました。坪田内科開業から30年の節目に近隣の移転のチャンスを得て、コロナ禍の中、様々なトラブルや感染対策のための改変を差し挟みつつ無事移転を果たし、もう半年が過ぎました。30年来通院されている方もいる中、地域のご理解も得られている手応えを感じ、大変ありがたく思っております。



当院では定期的に通院されている方については24時間電話対応および必要に応じて診察や救急医療機関への紹介を行っています。現在進行形の高齢化社会に今後も燃え尽きずに対応していくため、医師一人をかりつけとする「かかりつけ医」から、グループ診療所としての「かかりつけ医療機関」となれるよう、少しずつ前進を図っています。というのも小生自身が（まだまだ働くつもりですが）将来引退し、後任となる方のためにこの体制のメリットが大きいと考えているからです。訪問診療も行っていますが、小生が赴任した平成24年と比較して規模が約3倍に増えており、地域の高齢化に伴うニーズの変化を実感しています。小さな地域ごとのニーズに応えるためにも必要と考えています。

当院では坪田内科時代から広島大学の学生（アドバンス実習）の受け入れや、後続の家庭医療専門医育成のための研修期間としての活動を続けています。移転に伴い小さいながらもロッカーームや医局、図書室などを設けることができ、教育環境の充実を図っています。この令和3年度からは初期研修医の2週間単位での受け入れも開始します。

医師会活動の一環でも在宅医療同行研修を、昨年度は新型コロナウイルスの影響で中止になりましたが、3年前より指導医として関わらせていただいております。

当院の根差す地域に、将来にわたって医療的人材を保つためにも、小生が刺激を受け生涯学習者として過ごすためにも、今後も教育には携わっていきたいと思っています。その流れの中で総合診療や家庭医療に興味を持つ仲間が増えれば幸いです。

以上でOB活動報告、当院の紹介とさせていただきます。最後に、お読みいただいた皆様には、将来の広島総合診療・家庭医療のため、広島大学病院総合内科・総合診療科を今後もよろしく願っています。

新しい仲間を紹介します

法西 美果 先生 (医科診療医)



Mika Hosai

- 出身地：広島県
- 出身校：島根大学
- 血液型：O型
- 趣味や特技：少なくとも体力があります。
- 休日の過ごし方：自動車運転とギターの練習
- 部活 (中学校・高校・大学)：弓道
- 尊敬する人：地元の友人
- この1年の目標：論文執筆、報連相を徹底する、ペーパードライバーの卒業
- 将来の目標：世界一周旅行
- 皆さんへひとこと：周囲の方々の支えがあって、今の自分があると思っています。広島の医療に貢献出来るよう日々精進いたします。



岩橋 麻子 先生 (鍼灸師)



Mako Iwahashi

- 出身地：埼玉県川越市
- 出身校：東京医療専門学校 (2017年度卒)
- 血液型：B型
- 趣味や特技：文房具集め
- 部活 (中学校・高校・大学)：テニス部、美術部
- この1年の目標：鍼灸の外来、鍼灸研修生の受け入れなど新しい事がはじまります。継続・定着を目標に取り組んでいきたいと思います。
- 皆さんへひとこと：前職では慢性疼痛や緩和ケアの患者さんを多く治療してきました。鍼灸治療では東洋医学の考え方にに基づき、心と体の両方を同時に治療できます。また、接触鍼 (せつしょくしん) という鍼を体に当てるだけの「刺さない鍼治療」をすることもできます。「こんな患者さんに鍼灸治療はどうだろう?」と思うことがあればぜひお気軽にご連絡ください。



池田 晃太郎 先生 (医科診療医・大学院生)



Kotaro Ikeda

- 出身地：広島県広島市
- 出身校：広島大学 (2016年度卒業)
- 血液型：A型
- 趣味や特技：スペイン語を少々
- 休日の過ごし方：コロナ前はよくフットサルをしていました。
- 部活 (中学校・高校・大学)：フットサル (大学)
- 尊敬する人：両親
- この1年の目標：家族との時間を大切にしながら、臨床・教育・研究をバランスよく頑張りたいと思います!
- 将来の目標：医師として成長し続けていきたいと思っています。
- 皆さんへひとこと：これからも御指導よろしくお願い致します!



李 弘揚 先生 (大学院生)

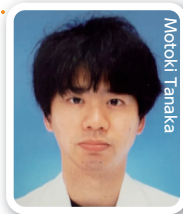


Li Hong Yang

- 出身地：中国 (黒竜江省)
- 出身校：天津中医薬大学 (2018年度卒業)
- 血液型：A型
- 趣味や特技：スキー、ジョギング
- 休日の過ごし方：家族と美味しい料理を食べて、アニメを見る。
- 部活 (中学校・高校・大学)：体育部
- 尊敬する人：コリン・キャンベル
- この1年の目標：研究で面白い結果を発見する。
- 将来の目標：もっと少ない薬を使って、病気を治すことができるように頑張る。
- 皆さんへひとこと：元気で毎日を過ごしましょう!



田中 基樹 先生 (医科診療医)

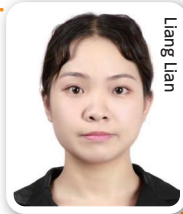


Motoki Tanaka

- 出身地：広島県
- 出身校：広島大学 (2018年度卒業)
- 血液型：AB型
- 趣味や特技：ドラマ鑑賞
- 休日の過ごし方：YouTube鑑賞
- 部活 (中学校・高校・大学)：将棋、陸上
- 尊敬する人：湊かなえ
- この1年の目標：職場で一定の信頼を得られるよう頑張ります。
- 将来の目標：自分の家を建てる。
- 皆さんへひとこと：よろしくお願いいたします。



梁 恋 先生 (研究生)



Liang Lian

- 出身地：中国 (武漢)
- 出身校：湖北中医薬大学
- 血液型：O型
- 趣味や特技：運動、旅行、Vlog
- 休日の過ごし方：勉強、旅行
- 部活 (中学校・高校・大学)：テコンドー部
- 尊敬する人：仏
- この1年の目標：①広島大学医学系科学大学院に入学すること ②筋肉トレーニングで健康的に痩せること ③英語は小川先生のようにもっと上手になること ④日本語は岩橋先生のようにもっと上手になること ⑤日本医師国家試験の受験資格をいただければ、頑張って合格すること
- 将来の目標：来年から考えてみます。
- 皆さんへひとこと：今後ともよろしくお願いいたします。



専門医研修修了式にて

2018年にスタートした総合診療専門医プログラムの第1期生が専門医研修を修了しました! はじめての専門医プログラムということで大変な面もありましたが、3年間を振り返ったプレゼンテーションでは総合診療医としての確かな成長を示してくれました!





●紹介患者様の依頼

2020年度は、年間を通して240以上の医療機関よりご紹介いただきました。その内訳として不明熱、リンパ節腫脹、倦怠感、全身の痛み、しびれ、浮腫などの症状に加えて、多愁訴および身体表現性疾患疑いの患者様を多くご紹介いただきました。ご紹介いただいた患者様は、総合診療、感染症、救急などの多彩な背景を持つスタッフが責任をもって、対応させていただいております。ご紹介いただいた患者様の症状が安定しましたら、病診連携にてその後の経過観察をお願いさせていただくこともございますので、その際にはご協力のほどお願いいたします。経過の報

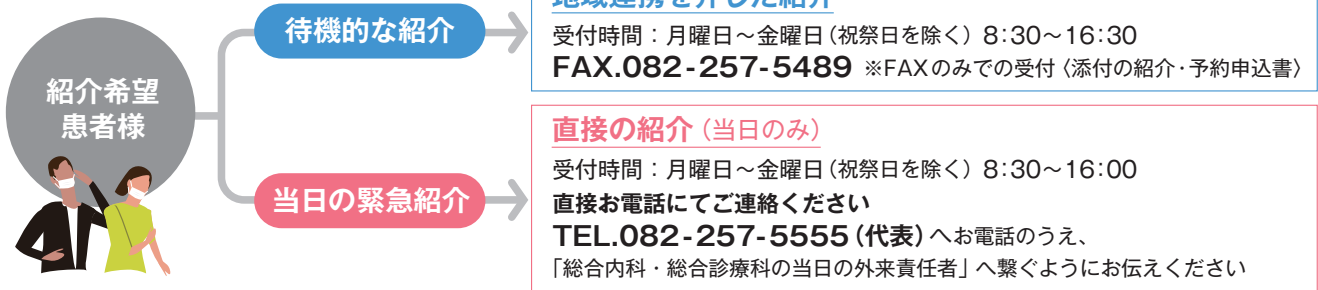
告は担当医が責任をもって記載しておりますが、紹介後の経過等で不明な点等ございましたら、担当医までご連絡いただければ幸いです。

通常の地域連携を介した紹介に加えて、当日の紹介も受け付けております。詳しくは以下のフローチャートをご参照ください。

引き続き先生方と連携を深めさせていただければと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

⚠現在、紹介枠を縮小しております。*

■当院紹介のフローチャート



*当診療科は広島県の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、5月下旬より県から要請のあった新型コロナウイルス感染症患者様の入院対応を開始しており、紹介患者様に対応するための人員が不足している状況です。そのため、紹介枠を縮小させていただいており、状況によってはご紹介いただく患者様の対応が困難な場合もございます。また、新型コロナウイルス感染症患者様の直接のご紹介は受け付けておりません。何卒ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

外来診療担当表

◎総合内科・総合診療科 紹介連絡先：082-257-5555（代）

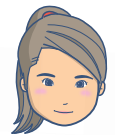
	月	火	水	木	金
総合診療科 外来	伊藤 公則 宮森 大輔 柿本 聖樹 田中 基樹	石田 亮子 小林 知貴	菅野 啓司 菊地 由花 原武 大介	伊藤 公則 岸川 暢介 大谷 裕一郎	河原 章浩 池田 晃太郎
漢方診療科	武生 英一郎	中島 正光	竹内 啓佑	小川 恵子 菊本 修	

編集後記

研究助手 米澤さやか Sayaka Yonezawa

この度2刊目となります、年間誌「Soshin Press Vol.2」を発刊しお届けできる事とても嬉しく思います。今回も当教室を皆さまに知っていただきたいという思いのもと、お迎えした新しい先生方をはじめ、スタッフの方のご協力をいただき完成に至りました。教室をより身近に感じていただける温かな雰囲気だけでなく、

先生方やスタッフのご努力を垣間見ることのできる充実した内容となっていると思います。これからも陰ながら先生方のお役に立てるような情報を発信して参りたいと思います。引き続き何卒宜しくお願い致します。



広島大学病院総合内科・総合診療科へのご意見・ご質問は…
E-mail soshinhp@hiroshima-u.ac.jp

ホームページ <https://home.hiroshima-u.ac.jp/soshinhp/>
facebook <https://ja-jp.facebook.com/sogoshinryou/>



ホームページ



facebook

広島大学病院 総合内科・総合診療科 ニュースレター vol.2

■発行日：2021（令和3）年6月14日 ■発行：広島大学病院 総合内科・総合診療科 〒734-8551 広島市南区霞1-2-3 TEL.082-257-5460